

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科  
フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011 年度 JASSO 派遣報告書

報告者氏名

山本 雄大

2001 年度 (入学) 編入

## 1. 研究課題:

エチオピアにおけるチャット(*Catha edulis*/ アラビアチャノキ)をめぐる嗜好品文化に関する人類学的研究

## 2. 派遣期間:

平成 23 年 9 月 2 日 ~ 23 年 11 月 29 日 ( 89 日間)

## 3. 今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

本調査の目的は、エチオピアにおけるチャットの生産・流通・消費に関する最新の動向の継続的データ収集と、近年に始まった公的機関による統計データの入手にあった。

申請者がこれまで調査をおこなってきた地域での観察や、生産者農家、商人、消費者に対するインタビューでは、前回調査からの約 1 年半の間にチャットをめぐる情勢に大きな変化は見られなかった。これまでの調査ではあらゆる面で急速な拡大成長が続いていたのに比べ、大きな変化がなかったこと自体が何らかの変化を示しているということができると思われる。

また公的データに関しては、調査対象地域を含む各行政区分(州、県、郡、村)において、チャットの国内流通にかかる税金および、チャットと他の作物の作付面積比率のデータ入手に絞り、税関と農業局へのアクセスを試みた。税関では全てのレベルの行政区での過去 5 から 6 年分のデータを開示され、この期間中にチャットからの税金が増え続けていることが明らかになったのに対し、農業局ではデータ自体が存在しない、外国籍の調査者への開示は難しいなどの理由で、一部を除きデータを得られなかった。

## 4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について

今回の調査では、農業関連の公的データはほとんど得ることができなかった。チャットの生産に関わる農業関連のデータは重要であるがしかし、今回得られた最新の動向や、税金のデータも大きな成果である。それらと過去のデータを元に投稿や、発表をおこなう予定である。

その上でデータの整理を進め、必要であればフォローアップのための渡航を検討したいと考えている。

## 5. 本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか?

継続的な調査態勢の維持に、今回のプログラムは非常に大きな助けとなったと感じている。後進のためにも、今後もこのような機会を継続してもらいたい。

署名